

平成20年国民生活基礎調査試験調査 (所得票自計化)の結果概要

1 調査の対象及び客体

平成20年国民生活基礎調査（指定統計調査）が実施された調査区から、有意に抽出した25地区のすべての世帯（約1,250世帯）及び世帯員（約3,750人）について実施した。

2 実施方法

調査員が配布した調査票に世帯の方が自ら記入し、後日、回収する方法とした。
なお、調査票の回収時に調査員が調査票の記載内容を検査し、記入漏れや記入誤りがあった場合には、聞き取りにより補完し、補完した内容、補完実施箇所及び数量が記録される方法とした。

3 調査の結果

○ 調査員による審査・補完の必要性

① 高齢者への積極的な関与

介助要請を受けた割合 16.1%

介助要請の理由 (複数回答)	記入の仕方を教えて欲しい	93.8%
	文字が書きづらい	20.0%
	文字が読みづらい	18.8%

年齢階級別にみると男女とも60歳以上が多い

② 特定項目の積極的な審査・補完

未記入・誤記入が懸念される社会保険料支払金額等への積極的な調査員の関与

社会保険料支払額 未記入率（補完前）17.8%

世帯へのアンケート結果 「社会保険料の支払い」については、59.0%の世帯員が「記入が難しい」と回答

(参考)

○ 回収率

平成20年試験調査	82.3%
平成19年調査（所得票）	67.7%

○ 調査員の補完状況

	補完前	補完後
未記入率	9.5%	5.0%
誤記入率	3.2%	—

4 結論

平成22年調査から調査員の関与を残した自計方式とする。